

第2節 流域の浸水被害の状況

新川流域では、古くから度重なる浸水被害を受けてきた。

特に、低平地である下流部の新川沿川、五条川沿川、青木川沿川や、地蔵川・新地蔵川沿川で、内水氾濫による浸水被害が頻発している。

代表的な洪水による浸水被害としては、昭和49年7月洪水、昭和51年9月洪水、平成3年9月洪水、平成12年9月洪水(東海豪雨)、平成20年8月洪水、平成23年9月洪水が挙げられる。

表 1.3 主要洪水一覧

洪水年月日	異常気象名	代表観測所	時間最大雨量 (mm/hr)	総雨量 (mm)	床下浸水 (戸)	床上浸水 (戸)	浸水面積 (ha)
昭和49年7月25～26日	豪雨	名古屋 (地方気象台)	17.5	130.0	273	12	624
昭和51年9月8～13日	台風17号	名古屋 (地方気象台)	43.0	391.0	728	51	790
平成3年9月18～19日	台風18号	名古屋 (地方気象台)	57.0	242.0	2,154	832	463
平成12年9月11～12日	台風14号 (東海豪雨)	名古屋 (地方気象台)	93.0	567.0	9,863	14,524	7,977
平成20年8月28～31日	豪雨	一宮 (地方気象台)	104.0	272.0	774	225	74
平成23年9月19～20日	台風15号 豪雨	名古屋 (地方気象台)	40.0	230.0	31	99	85

注) 平成3年9月洪水の床上浸水、床下浸水、浸水面積については、内津川の破堤による浸水を含む。
平成23年9月洪水の床上浸水、床下浸水、浸水面積については、八田川の越水による浸水を含む。



図 1.6 平成12月9月洪水被害状況

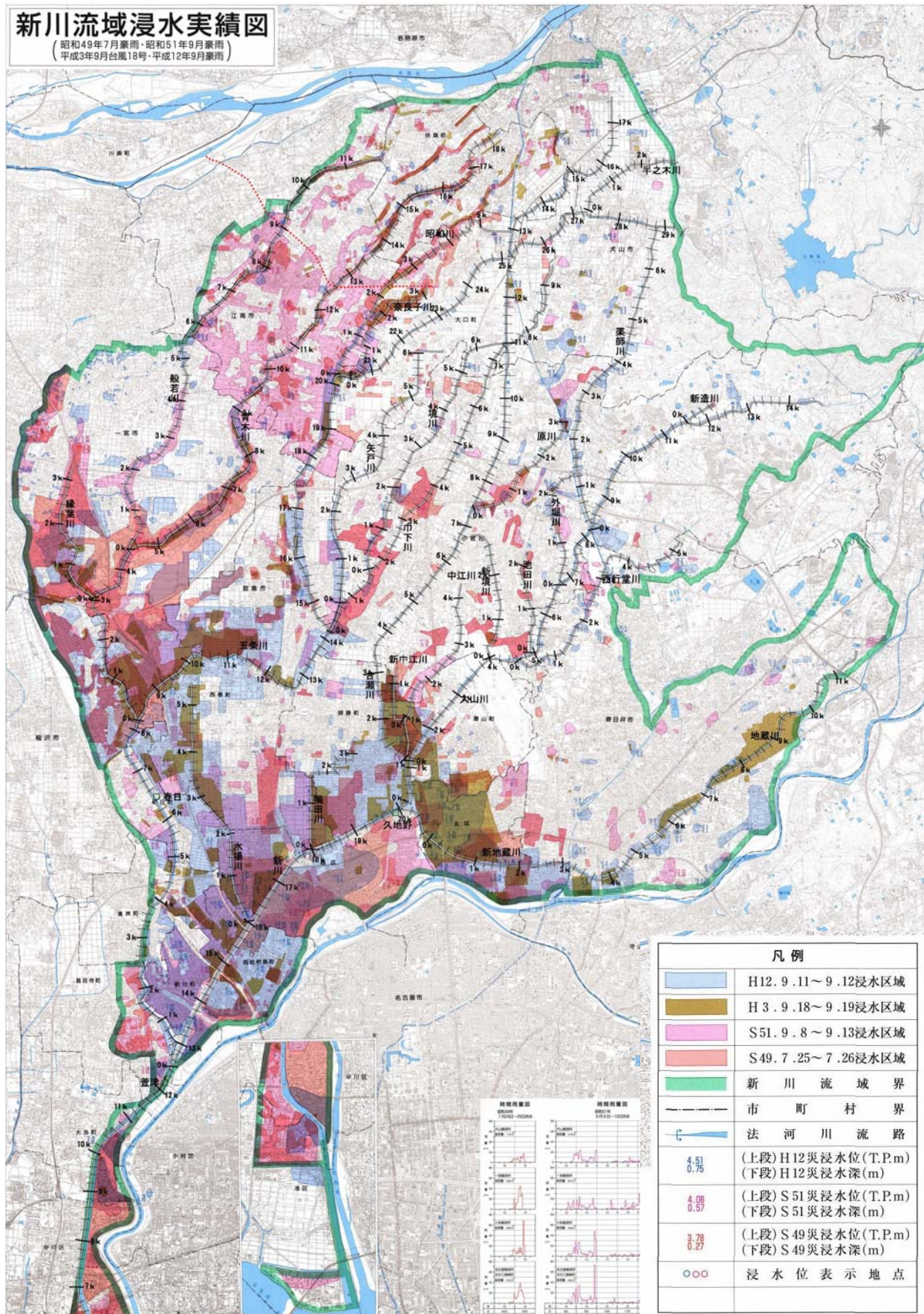


図 1.7 浸水実績図